

# 7. 男女別学・共学から考える男女共同参画

## 静岡大学ジェンダー研究会・たけのこゼミ

代表 小川 真知子

### 1. 事業目的

男女別学教育からヒントを得て、ジェンダーの視点から今後の家庭や社会における男女関係および男女協働を考える。

また事業の実施を通して、静岡における男女共同参画を実現するためのジェンダー教育およびイベント開催による啓発・啓蒙活動がどのように行われるべきか、についての知見を得る。具体的には、以下の2つの催しを実施する。

#### 【第1部】

未婚やそれに伴う少子化・高齢化現象について詳しい社会学者を呼び、講演を行う。結婚難や職場・家庭での生きづらさの原因となっている、男女それぞれの性別規範や社会通念について、感情社会学の見地から解説していただく。また現代日本におけるワーク・ライフ・バランスの難しさを解き明かし、今後の社会構造や経済状況の変化の中で、性別役割分業意識がどう変わりうるかについて理解する。

#### 【第2部】

中等教育・高等教育におけるジェンダー教育が専門の研究者を呼び、講演を行うとともに他の登壇者と討議の時間を持つ。講演では男女別学教育のメリット・デメリットについて論点を整

理し、特徴や強み、問題点について検討する。

また県内の男女別学校の関係者に現在行われている教育実践について紹介いただき、各校の特色や位置づけをとらえ直すことによって、男女別学校について情報共有を図る。生徒・児童の進路選択に対し大きな影響を持つ保護者の男女別学教育についての意識を変える。

第1部と第2部の講演内容に共通する点については以下の通りである。

- ◆アイデンティティ形成の時期である青年期におけるジェンダー問題を取り上げていること
- ◆男女協働を妨げる制約要因・阻害要因について検討していること
- ◆若者が直面する生きづらさや困難が社会構造・格差に起因するものであることを指摘していること
- ◆異性・同性に関する評価・価値観・規範などの感情面および関係性に関わる考察をしていること
- ◆一般に流布されているジェンダーに関する通説とアカデミックな研究成果の間に差があること
- ◆ジェンダーギャップを解消する方策を教育環境・教育のあり方から探っていること

## 2. 事業内容

### 【第1部】

内容：山田昌弘氏による講演

演題：『「モテ」と男女関係の  
カラクリ』

プログラム構成：

- ・あざれあ助成事業担当による挨拶（5分）
- ・主催者による趣旨説明（5分）
- ・山田昌弘氏 講演（60分）「モテる構造」
- ・質疑応答・意見交換（50分）

### 【第2部】

内容：ジェンダー教育の研究者および静岡県内の男女別学校の教育関係者による講演

演題：『子どもが賢くなる女子校  
男子校～自分らしさを伸ばせる  
学校選び』

プログラム構成：

- ・友野清文氏 基調講演（30分）  
「成功事例からみる男女別学教育」
- ・教育実践報告（各20分）

静岡英和女学院中学校・高等学校

吉田幸一 校長

静岡聖光学院中学校・高等学校

星野明宏 副校長

静岡県西遠女子学園中学校・高等学校

大庭知世 校長

- ・質疑応答・意見交換（30分）

## 3. 実施日時

### 【第1部】

平成31年2月2日（土） 13:30～15:30

### 【第2部】

平成31年2月2日（土） 16:00～18:00

## 4. 実施場所

静岡県男女共同参画センター・あざれあ

6F大ホール

## 5. 対象者

### 【第1部】

若年層を取り巻く状況や社会情勢について興味ある人

ワーク・ライフ・バランスや婚活、少子化について興味ある人

家庭や社会における男女協働について興味ある人

### 【第2部】

県内の中学・高校・大学の教育関係者

男女別学校の在校生の保護者

男女別学校への進学を考えている生徒の保護者



## 6. 参加人数

【第1部】53名

【第2部】21名

※途中退出・途中入場含む

## 7. 事業の成果

### 【第1部】

・講演により受講者は、現代日本の社会状況を認識し、将来を考える上で参考となる知識や視点を得て、自らの立ち位置や今後のキャリアについて考える機会を得た。

・「モテること」(人に好かれること)以外にも生きづらさや男女差別がどのような構造によって規定されているかについて理解することができた。

・男女関係や配偶者の選択に影響を及ぼす要因や制約条件について知ることができた。

・質疑応答を通して、個人の問題意識や悩みが社会学者の目から見てどのように解釈されるか、について実感できた。

## 【第2部】

・ジェンダーに立脚した男女別学教育についての研究成果を一般に還元することにより、教育の効果や影響に関して新しい観点から再認識することができた。

・静岡県内の各校の個性・カラーや位置づけを明確にすることで、地域における財産としての



男女別学校の存在意義について認識を深めることができた。

・進学について考えている児童の保護者に対して、共学と比較した形で男女別学校についての情報を提供することで、個々人にあった学校選びの一助となった。

・静岡県内の教育関係者に、中等教育の今後の運営戦略を考える上での材料を提供した。また今回の事業を通して学校間の情報交換を促進し交流を深めることができた

## 【主催者】

・講演内容の検討を通して、ジェンダー教育・

啓発コンテンツの開発についてノウハウを習得できた。

・山田昌弘講師からは、難解な社会構造についての話を平易なロジックに落とし込む方法、一般的に聞いても得にならない耳に痛い話をエンターテインメント性のある身近な話題として提供する方法について学んだ。また質疑応答の対応も手慣れたものであり、エピソードを交え理解を容易にする話し方は参考になった。

・友野清文講師からは、専門分野の幅広いトピックから目的に沿った形の講演内容に絞っていく過程について学んだ。

## 8. 今後の展望

アンケート調査の結果、内容については参加者の方々からおおむね好評で、今後の関連企画を期待する声も多かった。男女協働およびジェンダー、教育に興味がある層の支持を得られたという手ごたえを感じた。また、身の回りの悩みや疑問にからめてジェンダー問題について考えてもらうという目標は達成できたように思う。しかし一番の問題点は集客面で残念な結果に終わったところである。これは事業開始の時点での計画の詰めが甘かったことが一番の原因である。

事業計画の時点でテーマ・開催時期・内容・講師・目的・ターゲット・定員・申込方法・経費・広報の方法について決めたつもりでいたが、経験不足による認識違いから方針変更を余儀なくされ、結果最終形にたどり着くまで時間がかかった。またこれらの属性は相互に関連しているため、変更後の事業運営がちぐはぐなものになったのも失敗の原因であった。

当初の計画では、イベントの登壇者を男女別学校の在校生および卒業生としていた。しかし高校生を動員するには相応の準備期間と各方面に関する折衝が必要であることが分かり、最終的に当初の目論見からそれた事業内容となった。

学校現場および各ステークホルダーについて無知だったために、実現可能性について判断できなかった。

また大きすぎる規模の会場を設定してしまった。会場候補や予約に関する情報収集の甘さと集客見込みの誤りが選定ミスにつながった。申込システム（事前申込不要・当日受付）や開催時の運営方法（入退場自由）、告知方法についてもさらなる検討が必要だと思う。

次の事業を始めるにあたっては、事前に関係者にヒアリングやリサーチを行い、方向性を絞ってから具体的な企画に落とし込むようにしたい。地域の抱える問題やニーズにうまく繋がれた時に初めてイベントの動員も成功するようになると思う。

本事業の実施体制および進め方に関しても大きな問題が発生した。講演会イベントの開催経験のないメンバーが教育分野および男女共同参画推進関係の知識・経験もコネクションも何もないところから始めたため、試行錯誤しながら進めることになり、多方面に迷惑をおかけした。どこに相談すれば良いか？どの団体・組織・キーパーソンに話を通せば良いか？という基本的な所から迷うことも多く、行動の不備や手際の悪さに対してクレームがつくこともあった。

さらに少人数のゼミである主催団体における意思疎通・協働に難があったとの指摘もある。協働先の選定についても、もっと議論すべきであった。

「協働」（連携・共同・協力）については、個人においても団体間の関係においても当初期待したものとはかなりずれた結果になり、改めて難しさを感じた。「参画」（コミットすること・一緒に仕事すること）の意味についても考えさせられた。事業を進める過程で仕事と責任の関係、役割分担、協働に必要な相互理解について再検討することを余儀なくされた。

これらの問題については解決しきれないまま事業完了となったが、苦い経験を生かして今後の

糧としたい。

講演の登壇者とは事業を通して協力体制を敷くことができ、達成感を感じた。目的を共有し一緒に仕事に取り組むことによって立場の異なる者同士が連帯できる可能性を感じた。今回は講演会終了後に第2部登壇者による懇親会を行ったが、この集まりによる収穫が多かったとの感想を得た。今後イベントを企画する際には、参加者による交流会も視野に入れようと思う。

全体的に、コンテンツの検討に力点を置く一方、集客・協働面に課題が残ったバランスの悪い事業になったと思う。事業を実践するなかで主催者の問題意識や方向性、問題点がどこにあるか分析・整理できた面もあり、さらに事業結果について検証し、体制についても整えたうえで次のステップを進めていきたい。協力頂いた関係者およびあざれあの担当者に感謝の意を表しつつ、今後も培ったネットワークと経験とを足がかりとして、男女協働につながる男女別学教育・ジェンダー教育についてのプロジェクトを提案していこうと思う。

## 9. 協働団体

静岡英和女学院中学校・高等学校  
静岡女性史研究会

## 10. その他（アンケート結果）

以下参加者のアンケートの回答とそれについての考察を記す。主に予想と違っていた点、問題点の指摘、要望について取り上げる。

※アンケート回収枚数：44枚

<性別・年齢について>

- ・参加者の男女比はほぼ1:1であった。
- ・第1部については学生および20～40代の参加が多かった。



・第1部と第2部の関連性が分からない、また両方に参加して初めて関連が分かったという指摘が複数あった。企画の意図を明確に分かりやすく伝えていたら両方のイベントに参加する人が増えた可能性がある。

#### <参加理由について>

・【第1部】「将来・キャリアを考える上で役に立ちそう」「男女関係・男女協働に興味がある」「知っている先生が講演するので」に次いで「ジェンダーに興味がある」と回答した人が多く、「ジェンダー」という用語が予想以上に周知されているという印象を持った。

→チラシやプレスリリース作成の際「ジェンダー」という言葉の使用を避ける必要はなかったのかもしれない。

・【第2部】「子どもの将来・キャリアを考える上で役に立ちそう」「ジェンダーに興味がある」と回答した人が多かった。「女子校・男子校に興味がある」と答えた人は予想より少なかった。参加理由の選択肢には設定しなかったが、「教育に興味を持っているので」参加した人もいた。

#### <運営について>

・配布資料が欲しかったという声があった。

・【第1部】講師の先生の話が聞きづらいという指摘があった。これは体調不良のためで、講演のペース配分がうまくいかず講演時間が予定より延びた。

・【第2部】プロジェクタの表示の不具合で時間を浪費した。

→これらの想定外のアクシデントにも対応できるよう今後は対策を考えたい。

#### <開催時期や広報について>

・Webサイト掲載（あざれアナビ・アットエス イベント情報）、新聞の催事情報掲載（朝日新聞・中日新聞）、教育施設へのチラシ設置の各手段にて告知を行った。

・テーマは面白いので広報に力を入れればもっと人が入るのに、もったいないという意見を多数頂いた。

→計画が遅延したせいで広報が不十分だった点は大いに反省したい。

・第1部第2部同日開催だと時間が長すぎて参加しづらい、せめてAM～PMにかけての開催にしてほしいという要望があった。日曜日開催を望む声もあった。

・【第1部】結婚相談や婚活支援分野の仕事に関わっている参加者が複数いた。山田昌弘講師が「婚活」関係で著名なことを鑑みてもこの方面をターゲットとして告知すべきだったと考える。

・【第2部】開催時期を進路決定の時期に合わせるべきだったという意見を多数頂いた。また開催情報が告知すべき層（進学を考えている生徒の保護者）に届いてない、という指摘があった。

#### <内容について>

・第1部の質疑応答では同意や肯定を求める人が質問、一方第2部においては迷っている人が質問していたとの指摘があった。

#### （【第1部】の内容について）

・自身の結婚・夫婦関係・兄弟関係・友人関係を考え直すきっかけになったという感想が多かった。

・男の子でも、モテるように育てることが本人の幸せにつながる＆女の子の方が自由度が高いという意見があった。

・なんとなく感じていたことを明確にしてくれた、目からウロコ、改めて納得、という感想が複数あった。

・男女関係以外にも男同士、女同士の関係性について述べているコメントがあった。

・講師は婚活指南の講演ではないとことわっていたが、質疑応答やアンケートでは結婚難時代におけるパートナー獲得について知りたいという要望があった。

・予想はしていたが、女性の仕事ができることとモテることの両立方法が知りたいという要望があった。

・男女共同社会の目的達成のためにはジェンダーの考え方が有効だという感想があった。しかしこの実現は理想でしかなく、多数派の性別規範意識の変革は簡単にいかないという考えであった。

・男女関係の実態や意識は世代ごとに異なっているという指摘があった。最近の若い男子は競争にこだわってない傾向があるとのこと。

・質疑応答やアンケートで“できない”“モテない”当事者からの質問があった。

→講演内容は生きづらさの構造にもかかわるテーマであると再確認した。

(【第2部】の内容について)

・女子の特性・男子の特性をジェンダー的に取り上げた部分に興味を持ったという人がいた。

・アンケートおよび質疑応答で、共学/別学校におけるいじめ・マウンティング・ヒエラルキー・序列などの問題に興味がある人が一定数いると感じた。

・共学環境下で生きづらさを感じている子供のための選択肢としての男女別学校、という捉え方に共感する意見があった。

・私立校・中高一貫校の利点について着目した意見もあった。学校説明会とは違った面が見ることができ、校長先生方の面白い話が聞けてよかったという感想も複数あった。

→地域のリソースとしての学校に別の面から光を当てることができ嬉しく思う。

・親として、学力以外に子どもの性格面の弱点、生きづらさに着目して進学先を考えているというコメントがあった。

→男女別学校は生徒の才能や自信を育てる場所であると同時に、ジェンダー構造の中で問題や生きづらさを抱えている子をカバーし補完する場所でもあることを再認識できた。

チラシ①

平成30年度 あざれあ地域協働事業「男女別学・共学から考える男女共同参画」

## 「モテ」と男女関係のカラクリ

女は女らしく、男は男らしく―世の中、男も女も生きづらい..

開催13:15  
2月2日(土) 13:30-15:30 あざれあ 6F大ホール **申込不要 参加無料**

男と女とどちらが得? うちの子結婚できるのかしら? 才能兼備のスーパーウーマンなんて無理~ 女どしがラク恋愛は面倒 こんな風に考えている方へ 結局稼げない? モテない? 親や世間の期待が重荷 男だって競争から降りたい 仕事とプライベートの両立に疲れた

中央大学教授 **山田昌弘 氏講演会**

「モテ」で有名な社会学者が徹底解剖  
「仕事ができる」ことと「モテる」こととの関係

男女それぞれの「どんな人がモテるか?」という「異性の好み」「結婚相手への期待」が結婚難や職場・家庭での生きづらさの原因になっている!?

現代日本におけるワーク・ライフ・バランスの難しさを解き明かします!

「パラサイトシングル」「婚活」「格差社会」という言葉の各付けられた、読者層が異なる、テレビの番組に出演するコメンテーターとしても知られている、著書多数。

現代日本におけるワーク・ライフ・バランスの難しさを解き明かします!

女 結婚したい? モテたい? 結婚できない? 恋愛できない? 結婚できない? 恋愛できない? 結婚できない? 恋愛できない?

男 結婚したい? モテたい? 結婚できない? 恋愛できない? 結婚できない? 恋愛できない?

当日参加OK 定員300名 入退場自由

静岡県静岡市駿河区馬場1丁目17-1

同日開催 16:00- 子どもが賢くなる女子校・男子校

ogawa.suruga@gmail.com 090-4428-8080 担当: 小川

チラシ②

平成30年度 あざれあ地域協働事業「男女別学・共学から考える男女共同参画」

## 子どもが賢くなる女子校・男子校

自分らしさを伸ばせる学校選び

2月2日(土) 16:00-18:00 あざれあ 6F大ホール **参加無料**

進学を考えておられる父母の方々に、男女別学で行われている取り組みについて徹底解説します。どんな子が女子校・男子校に向いているの? 男女別々だと異性とうまくやっていく力が身につかないのでは? 子どもの個性ややる気を育てるにはどんな環境が良い? そんな疑問にお答えします。出身校の今に興味があるOB・OGの方、高校生の方も、ぜひお誘いあわせの上お越しください!

16:00- 昭和女子大学 現代教育研究所長・総合教育センター教授 **友野清文 氏講演** 「いきなり進学校に!? 成功事例からみる男女別学教育」

16:30- 「女子だけ、男子だけの環境でこそできる教育」  
静岡英和女学院中学校・高等学校 吉田幸一 校長  
静岡聖光学院中学校・高等学校 星野明宏 副校長  
静岡県西遊女子学園中学校・高等学校 大庭知世 校長

17:30- 質疑応答・意見交換

13:30-15:30 **山田昌弘 氏講演会**  
「モテる構造」  
女は女らしく、男は男らしく―世の中、男も女も生きづらい! 若者が社会に出てから直面するワーク・ライフ・バランスの難しさを解き明かす

中央大学教授、  
「パラサイトシングル」「婚活」「格差社会」という言葉の名付け親であり、読者層が異なる、テレビの番組に出演するコメンテーターとしても知られている。

有名社会学者が解剖  
男女それぞれの  
「仕事ができる」ことと  
「モテる」こととの関係

静岡県静岡市駿河区馬場1丁目17-1

同日開催 16:00- 子どもが賢くなる女子校・男子校

ogawa.suruga@gmail.com 090-4428-8080 担当: 小川